

令和4年度 イチオシ!の ICT 活用方法

教育委員会

市原市教育委員会

1. 小学校の学習における活用方法 (学校名: 国府小学校)

1年生の算数の授業では、電子黒板とモニターで書画カメラを活用していました。国府小では黒板をほとんど使用せず、ノート書き方も、書画カメラで先生の手元を大きく表示しています。



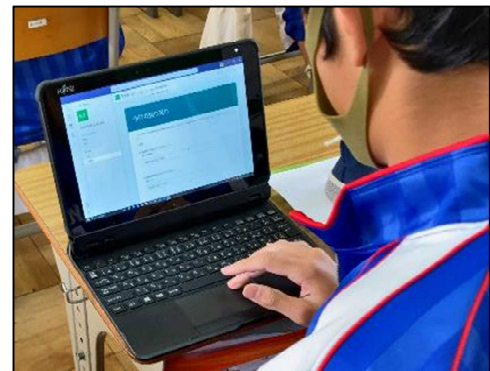
授業の冒頭では、復習として、前時の授業中に録画しておいた、まとめの様子を再生して振り返り。それを踏まえて、本時の内容に入ります。バイシンクでデジタル教科書の一部を「画面配信」し、児童は画面に直接書き込んで問題を解いていきます。学習の進捗は「巡回」機能を使ってチェックし、手が止まっている児童に声掛け。解いた問題は先生に「提出」し、電子黒板に投影して発表、と ICT 機器をフル活用！

授業のまとめでは、Teams を使って、授業の理解度を回答。紙を使っているのは、ノートのみでした。

授業後、「正直、タブレットを使うのって難しくない？」と聞いたところ、「カンタンだよ！」と力強く答えていたそうです！ やはり、日々の積み重ねですね！

2. 中学校の学習における活用方法 (学校名: 有秋中学校)

中学2年生の社会の授業。京都の文化を守るための工夫についてです。特に注目したのが、授業の中で使用する ICT ツールの使い分け。



①デジタルドリルで前時の振り返り (タブレットでドリル)

②メンチメーターで京都のイメージ調査 (タブレットでアンケート)

③京都の景観について講義 (電子黒板)

④京都の文化を守る工夫について個人で考える (プリント)

⑤ (④について) グループ討議 (プリント) →⑥グループごとに発表 (電子黒板・バイシンク)

⑦本時の振り返り、まとめ (タブレットでForms) ※()内は使用している ICT ツール・教材です。

前時の振り返り、アンケート、本時の振り返りなどはプリントではなく、タブレットで行うことで紙を配布する時間短縮と作業の効率化。先生が話をするときは、全員電子黒板に注目し、補足資料はタブレットに送付。個人で考える、グループ討議では、紙のプリントにまとめ、発表時にタブレットで写真を撮ってバイシンクで提出して共有。最後のまとめは、Forms のアンケートで理解度を答える、というデジタルとアナログのメリットを活かした使い方でした！先生がファシリテータのような役割で、生徒が考える時間と発話する時間を長くとっていたのも印象的でした。